THE YOMIURI SHIMBUN
讀賣新聞
2014年(平成26年)
11月5日水曜日
読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 電話(03)3242-1111(代) www.yomiuri.co.jp

台湾で「春樹」研究始動

経済、社会への影響調査

私大に拠点

人気作家の村上春樹氏を専門とする研究センターが台湾の私立大学・淡江大学に誕生し、始動した。文学研究の枠を超え、作品のもたらす経済効果や社会的影響を総合的に研究するのが目的で、同様の研究拠点は世界でも異例という。中国語圏での人気をリードしてきた台湾社会の「村上熱」は新たな段階に入ったといえる。

（台北支局　向井ゆう子）

台湾で出版された村上春樹氏の作品＝台北市内のカフェ「海邊的卡夫卡（海辺のカフカ）」で、向井ゆう子撮影

「村上春樹研究センター」がこの夏、淡江大に設立されたのは、もともと同大の日本文学研究が盛んなだけでなく、台湾の村上作品の読者層が厚いことが理由だ。センター主任の曽秋桂教授（日本文学）は「毎年指導する学生の中で、村上研究の希望は絶えることがない」と語る。

10月、ノーベル文学賞が別の作家に決まった時も、ファンの中からは、「肩書が一つ増えるだけの文学賞受賞より、作品が一人でも多くの人に読まれる方が大事だ」（台北市内の大学生）との冷静な声が聞かれた。

1990年代以降、台湾を出発点に、香港、上海、北京へと人気が広まり、中国語圏での村上ブームを先導してきた。1万部売れれば、ベストセラーとされる台湾で、「ノルウェイの森」は50万部以上売れている。

作品の影響は社会の様々な面にみられる。カフェ「海邊的卡夫卡（海辺のカフカ）」、「国境の南、太陽の西」にちなんだ民宿「国境之南」などが存在する。「非常村上」（すっごく村上）という言葉は台湾が発祥の地だ。台湾で作品の翻訳が始まった80年代後半は、ちょうど台湾の民主化の時期と重なる。村上氏の作品から、当時の若者らが西洋と自由を感じたといわれる。

センターは今後、村上氏の作品に登場する音楽が台湾でどう受け入れられてきたのか聞き取り調査を行うことや、都会的な「村上式生活」をモチーフにしたデザインや内装を施したマンションの購入者に対し、作品の影響について市場調査を行うことを検討している。

中国語圏の村上ブームに詳しい東京大学の藤井省三教授（中国文学）は「台湾には村上作品を読むだけでなく、『楽しむ』社会性がある。幅広い研究は非常に台湾らしい発想だ」という。